

平成31年度全国学力・学習状況調査からみる本校6学年児童の傾向と改善の方向について

長野市立鍋屋田小学校

校長 田川昌彦

本年4月18日に6学年を対象に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を受け、本校の傾向と改善の方向についてお知らせします。

この調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の結果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」ことにあります。公表にあたっては、調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえた上で、調査結果の分析に基づいた本校の傾向を示し、日々の教育活動や今後の具体的な取り組みについて検討し改善に役立てたいと考えています。

1 全体的な傾向

全体的な傾向

〔国語〕〔算数〕ともに、正答率が全国平均や長野県平均を上回りました。また、各教科のそれぞれの学習指導領域においても、すべての領域において全国・県平均を上回りました。

2 教科別の傾向と考察

(1) 【国語】

全体によくできている 課題は「質問の工夫」

①【話すこと・聞くこと】

「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする」「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」問題では、全国・県平均を上回りました。「目的に応じて質問を工夫する」問題のみ正答率が全国・県をやや下回りました。国語の学習に加え、特別活動や総合的な学習の時間の中で、異学年や地域の方などに話を聞きたい、質問をしたいと思える場面、子どもたちにとって必要感のある場面を設け、目的に応じて質問を工夫することができるよう指導していきます。

②【書くこと】

すべての問題において全国・県平均を上回りました。特に「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」選択式の問題がよくできました。お互いの文章の良さ・工夫点を話し合う学習の成果が表れていると考えています。今後も、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」力や「必要な資料を読み取り、分かったことを条件（資料の語句を使う・字数指定など）に合わせてまとめて書く」力を更に伸ばしていけるよう、国語に加え、社会科や総合的な学習の時間の中でも指導していきます。

③【読むこと】

すべての問題において全国・県平均を上回りました。読書や読み聞かせなどの活動を継続的に行っている成果が表れていると考えています。特に、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読む」問題では、疑問に思ったことに対する答えとして適切なものを選択する問題がよくできました。一方、同じような問題に対して自分で考えて記述する設問設定になると、全国・県平均の上回り方が小さくなっています。②の【書くこと】についての指導を国語の読む学習の場面でも指導をしていきます。

④【言語についての知識・理解・技能】

「漢字を文の中で正しく使う」「接続語を使って内容を分けて書く」「ことわざの意味を理解して自分の表現に用いる」で、全国・県平均を上回りました。「漢字を書く」では、「友達にかぎらず」の設問のみやや平

均を下回りましたが、それ以外の問題は大きく上回りました。「国語のドリル」や日々の家庭学習、自主学習の成果が表れていると考えます。今後も日々の漢字の書き取りに加え、「国語のドリル」「自主学習」などで、言語についての知識・理解・技能の定着を図る指導を大切にしていきます。

(2) 【算数】

全体によくできている 課題は「除法の意味理解と性質」

①【数学的な考え方】

考え方に関わる問題すべてで全国・県平均を大きく上回りました。示された求め方（考え方）の解釈がよくでき、友だちの考えを読み解こうとする学習や説明をする学習の成果が表れていると考えています。ただし、面積の求め方の説明・除法の性質の記述については、全国・県平均の上回り方がやや小さくなっています。今後、関連する単元の中で既習を補いながら、図形を操作したり、図表をかいいたりする活動を充実させ、説明等の記述する力を高める指導をしていきます。

②【数量や図形についての技能】

技能に関わる問題は、全体的に全国・県平均を大きく上回りましたが、「棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができる」問題のみ、わずかに全国・県平均を下回りました。今後も、社会や理科等の他教科においてもグラフなど資料を読み取る場面で丁寧に指導をしていきます。また、今回の調査では一般的な計算の正答を求める問題が1問だけでした。計算力は算数学習の基礎となりますので、今後も計算等で躓きのある児童に個別支援をしながら計算力の育成に取り組んでいきます。

③【数量や図形についての知識・理解】

知識・理解に関わる問題は2問ありましたが、どちらも全国・県平均を上回りました。台形については100%の正答率で視覚的に捉える指導の工夫等の成果が表れているように感じました。一方で除法の式の正答率は、全国・県平均を上回りましたが、全体では正答率が低くなっています。今後も、立式の根拠を問いながら除法の式の意味理解の指導をしていきます。

3【児童質問紙からの傾向】

学習環境・学習意欲・学習方法・生活の諸側面に関して、次のような良さと課題があります。

◇基本的な生活習慣などに関わる質問（朝食を毎日食べている・毎日同じくらいの就寝起床時刻である・家の人と学校の話をする）では、すべての質問で「している」と答えている割合が県・全国の平均と比べて高くなっています。特に朝食については「している」が94.9%「どちらかという、している」を合わせると100%となっています。また、家の人と学校での出来事について話をする子どもも多く、家庭での基本的な生活習慣と学校教育に対する保護者の皆様のご理解とご協力があることも、子どもたちの充実した生活や学力の向上につながっています。

◇挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感などに関わる質問では、ほとんどの質問で「当てはまる」と答えている割合が県・全国の平均と比べて高くなっています。中でも「学校に行くのは楽しいと思いますか」「学校みんなで話し合ったことなどに協力して取り組みうれしかったことはありますか」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」の質問に対して「当てはまる」と感じている子どもの割合がとて高くなっています。総合的な学習の時間において子どもたちが目標をもって意欲的に取り組む活動を大切にできたことや、担任だけでなく校長や養護教諭やその他の教員、スクールカウンセラーなど広く相談窓口を設け、子どもたちが気軽に相談できる環境を整えてきた結果、学校や教室・学級集団が子どもたちにとって安心できる場所になってきていると考えます。今後も、子どもたちのよさを認めながら、子どもたちが楽しく安心して生活ができる学校を目指していきます。

また、「将来の夢や目標はもっていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対しても「当てはまる」と感じている子どもの割合がとて高くなっています。本校では3年前からクラブ活動では地域の方を講師にお招きして学んだり、合唱団でも地域の方の支援を得て専門的に学んだりしています。また、昨年度は、学校とPTAが協力して「キャリアフェス2018 IN 鍋屋田」～10歳からのキャリア教育～を行い13種の職業のプロから学ぶ機会を設けました。今後も、「本物」と触れ合う機会、その人の生き方や考え方を学ぶ機会を増やし、将来の夢や希望を持てる子どもたちの育成を目指していきます。

◇地域や社会に関わる活動の状況などに関わる質問では、すべての質問で「当てはまる」と答えた子どもの割合が県・全国の平均と比べて高くなっています。中でも「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」という質問に「当てはまる」と答えた子どもの割合がとて高くなっています。子どもたちは、地域の公民館活動や育成会行事などを通して、地域で支えられながら健全に育っています。学校として、今後も引き続き、「総合的な学習の時間」を中心に、地域とつながる学習を大切に、地域を愛し、地域に根ざす子どもたちの育成に努めてまいります。

◇主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取り組みの状況に関わる質問では、すべての質問で「当てはまる」と答えた子どもの割合が県・全国の平均と比べて高くなっています。中でも「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」の質問に「当てはまる」と答えた子どもの割合がとて高くなっています。これは昨年度、総合的な学習の時間を中核にして探究のプロセス（【課題設定】⇒【情報の収集】⇒【整理・分析】⇒【まとめ・表現】）を繰り返す学習活動を展開してきた成果であると考えます。今後も主体的・対話的で深い学びに向けて、各教科での取り組みはもちろん総合的な学習の時間も大切にして、その中で子どもが話し合ったり、説明し合ったりする場を位置付けて学習活動を展開していきます。

◇学習に対する興味・関心や授業の理解度などに関する質問では、ほとんどの質問で「当てはまる」と答えた子どもの割合が県・全国の平均と比べて高くなっています。今後も「ねらい」「めりはり」「見とどけ」を大切に、どの子にとっても「分かる」「楽しい」授業を目指し、学習意欲が高まるように授業のユニバーサルデザイン化や個別支援に取り組んでいきます。

◆ICTを活用した学習状況の質問に対して、ICTを活用した程度が県・全国の平均と比べて低くなっています。また、「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したい」という思いを持っている子の割合が多くいることも分かりました。ICTを操作することが目的とならないようにしながら、学校としても有効に活用できる方法を考えて取り組んでいきます。

◆「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法で考えますか」の質問では、「当てはまる」と答えた子どもの割合は県・全国平均を上回りますが、「どちらかというと 当てはまる」を合わせると、県・全国平均をやや下回ります。また、「国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」という質問に対して、「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた」「書く問題は全く解答しなかった」と答えた子どもの割合が高く、少し諦めやすい傾向にあることが分かります。今後、様々な学習や活動の中で子どもたちを励ましなが、諦めずにやり遂げた充実感を味わうことができるように努めていきます。

◆「学校のきまりは守っていますか」の問いで、「当てはまる」と答えた子どもの割合は県・全国平均を上回りますが、「どちらかというと 当てはまる」を合わせると、県・全国平均をやや下回ります。社会人として育っていく子どもたちに、校内生活や校外生活において「公共のルールやマナーを守る」ということが日頃から意識し実践できるように指導してまいります。そのために、校内では児童会活動で「廊下歩行」や「あいさつ」の向上に向けた取り組みを行い、校外においてはご家庭や地域の方のご支援とご協力も得ながら必要に応じて指導を行ってまいります。

以上のように、この調査から見える成果や課題をしっかり受け止め、指導・支援の充実を図り、確かな学力の向上に努めてまいります。

本校の児童は家庭や地域の教育力に支えられて健全に育っており、学校生活も楽しく充実したものになっていると感じています。今後さらに、学校や家庭での過ごし方の振り返りをするとともに、人から言われてやるのではなく自分から進んで学習する「なべっ子学習」や「家庭学習」についてさらに指導をしていきたいと考えています。一人ひとりの生活や学習の仕方を見直して改善していくことが、学力の向上とともに健全な育ちにつながっていきます。学校とご家庭との連携を一層取り合っていきたいと思います。ご家庭においても、生活習慣や学習環境、家庭学習のあり方などについて更なる改善に向け、ご理解とご協力をお願いいたします。